

演題名：3T-MRI 装置導入・1.5TMR 装置更新を経験して

施設名：もみのき病院

氏名：水口 紀代美

メールアドレス：only.bluewine@gmail.com

【はじめに】

内田グループのMR装置は、1台を除き設置から10年が経過し設備投資が行われていない状態であった。今後の経営において、超高齢化に向かう医療環境を考えた場合、集客力を高めるためにも、設備投資は必然不可欠であるといえる。診療の質を向上させ患者からの信頼を受け、大病院にも劣らない医療を展開することが放射線科に求められている。今回、2016年に行ったもみのき病院のMR装置導入・更新について報告を行う。

【問題点】

1. 古い機種での撮像は、ルーチンのみでの撮影のみで何らかの疾患を見つけても追加撮像に限界があり、技師としてのモチベーションが低下している。
2. 2つの操作室が別々であり、技師間の連携が悪い。
3. MR室の温度管理ができておらず、装置の故障が多く不安定である。
4. 県内の医療機関で3TMR装置の導入が進み、もみのき病院の画像診断の質が低下している。

【機種選定基準について】

2台のうち1台は3TMRを導入することとし、

1. 1.5T：経過観察に主として使用する。現在の3名/時間から3.5~4名/時間のスループット向上が必要で、ASL・SWI等が行えることが必須。 γ ナイフの位置決め画像として、エレクタとの通信制の関連性が良いもの。
2. 3.0T：精密検査用として、使用する。現状の1.5Tでできること+ α の価値が必要。他の施設ではできないような、脳神経外科に特化した画像提供ができること。

【環境整備について】

技師の動線が悪いところを改築にて解消し、改築のタイミングで防湿加工を行った。

【まとめ】

現状に満足せず問題点を解決させる方策を講じ、今後の医療環境の変化に敏感に対応し、診療の質向上に一端を担う画像診断を行っていきたいと思う。